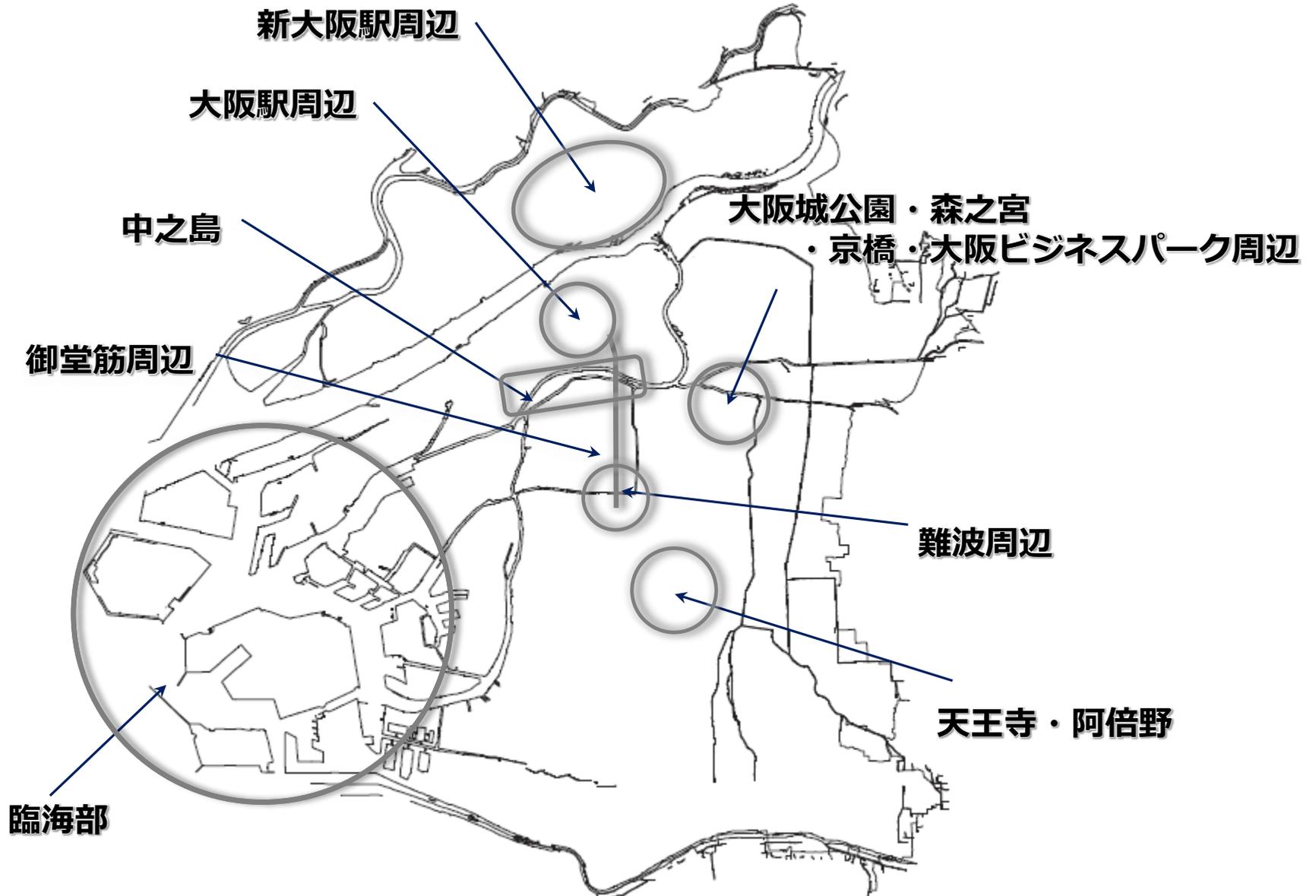


エリア別のまちづくりの方向性

位置図



大阪市まち・ひと・しごと創生総合戦略の中からまちづくりに資する施策を取り出して上記エリア別に編集し、各エリアのまちづくりの方向性についてとりまとめています。

大阪駅周辺

- 大阪駅北側に位置するうめきた2期区域は、「みどりとイノベーションの融合拠点」として、世界から人が集まる、一体的で魅力あるまちづくりを進めます。
- 民間の創意工夫によるエリアマネジメント*を誘導し、大阪駅周辺において一体的に運用することで、まちの付加価値を高め、憩い、過ごすことができる快適な空間の創出をめざします。

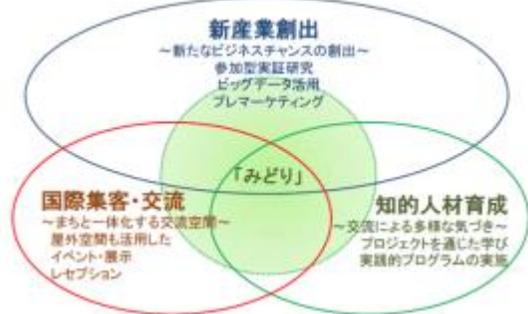
*地域における良好な環境や地域の価値を維持・向上させるための、住民・事業主・地権者等による主体的な取り組み

うめきた2期区域のまちづくり

- 2期区域のまちづくりの目標
比類なき魅力を備えた「みどり」が創る新たな都市空間

「みどり」と「イノベーション」の融合拠点

うめきた2期に導入する中核機能の概要



都市基盤施設の整備（民間開発と合わせて一体的に推進）

■うめきた新駅設置事業・JR東海道線支線地下化事業

地上を走行するJR東海道線支線を地下化し、分断された市街地を一体化します。踏切除却等により、都市内交通を円滑化するとともに、新駅を設置し関西国際空港との所要時間を短縮させ、国際競争力を有する地域を形成します。

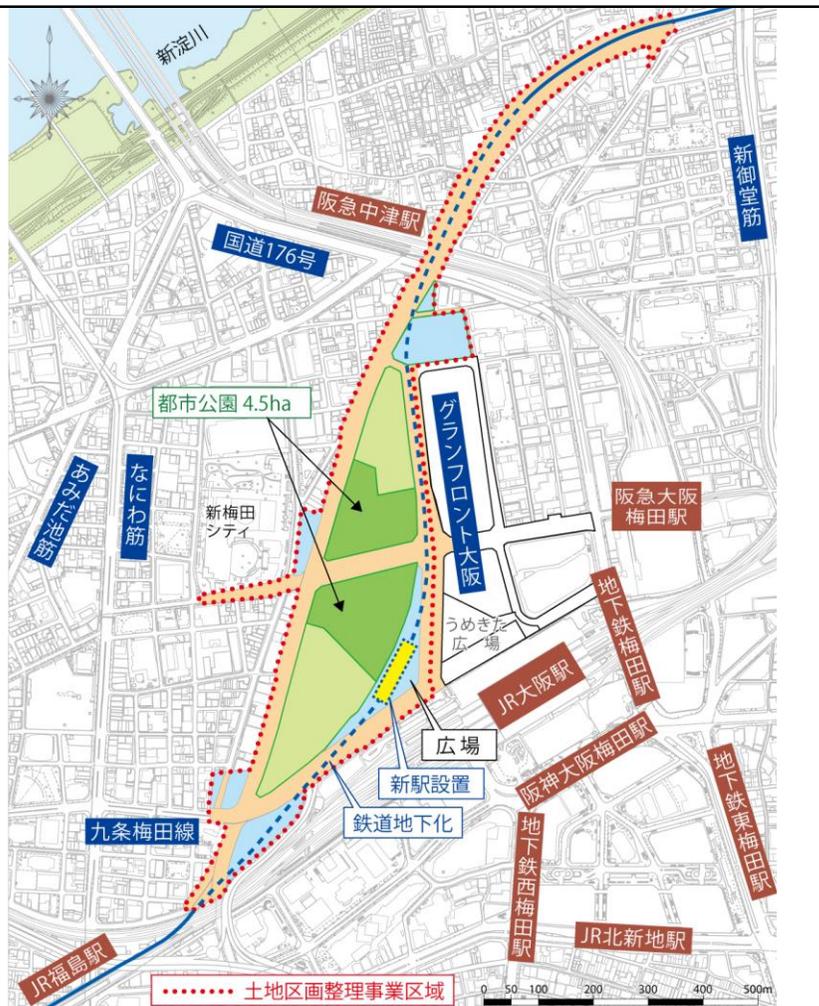
■大阪駅北大深西地区土地区画整理事業

民間開発に向け、土地の区画を整え、良質な宅地を提供するとともに、地区の骨格となる道路、広場等の公共施設を整備します。

■大深町地区防災公園街区整備事業

地上のまとまったみどりとして、地区中央部に防災公園を整備します。

うめきた新駅の設置等とともに、新たな鉄道「なにわ筋線」の事業を推進し、都心部から関西国際空港や新大阪へのアクセス強化を図ります。



提供：UR都市機構

中之島

・水の都・大阪のシンボルである中之島において、これまでの業務・文化・MICE機能の集積に加え、大阪中之島美術館や未来医療国際拠点の整備を核に、未利用地の土地利用転換を促進し、これらが連携・調和し相乗効果を発揮するまちづくりの実現を図ることにより、大阪の文化・芸術・学術・国際交流の拠点形成をめざします。

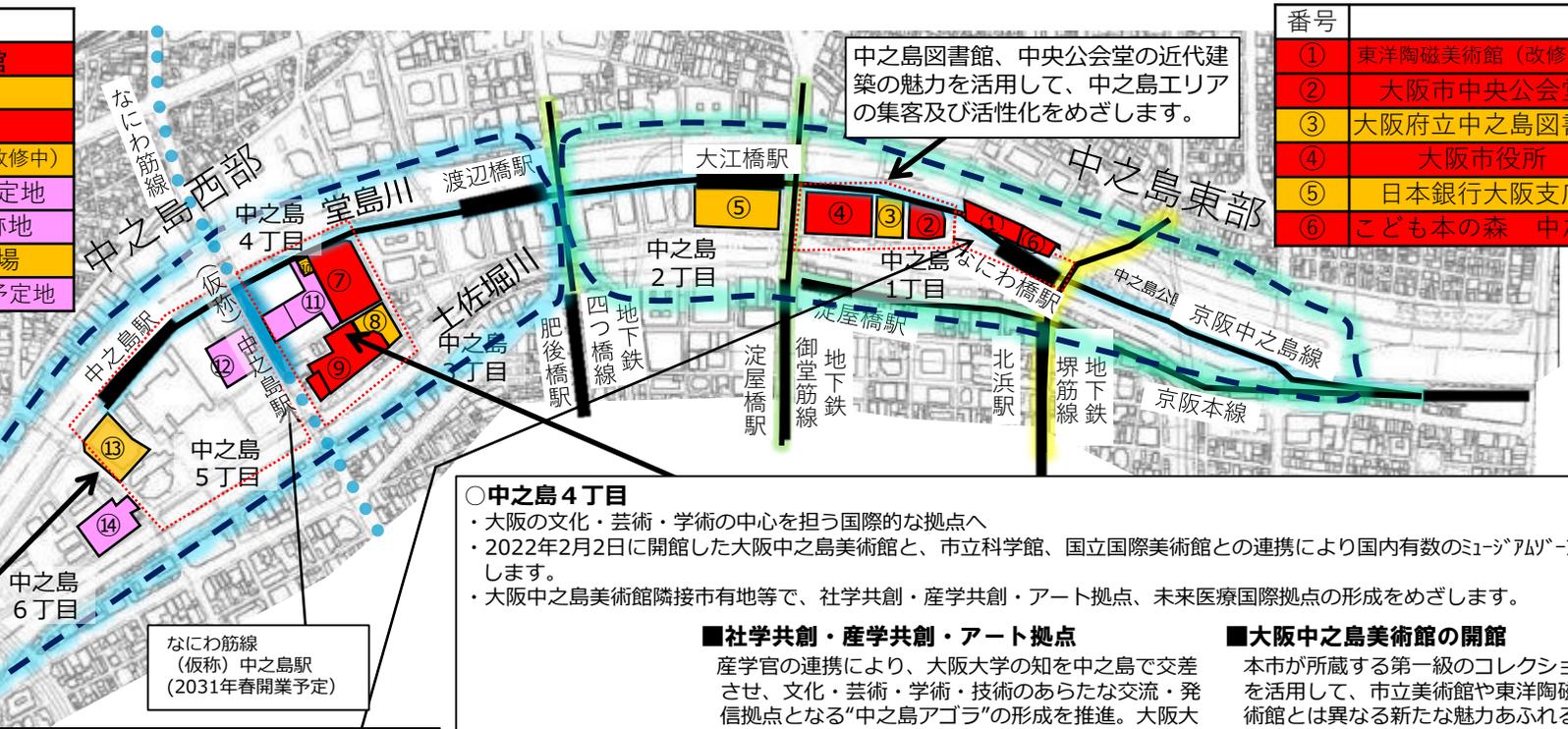
番号	
⑦	大阪中之島美術館
⑧	国立国際美術館
⑨	大阪市立科学館
⑩	大阪大学中之島センター（改修中）
⑪	未来医療国際拠点予定地
⑫	大阪市立扇町高校跡地
⑬	大阪府立国際会議場
⑭	中之島西部小中一貫校予定地

番号	
①	東洋陶磁美術館（改修中）
②	大阪市中央公会堂
③	大阪府立中之島図書館
④	大阪市役所
⑤	日本銀行大阪支店
⑥	こども本の森 中之島

凡 例		
	整備済み	整備予定
大阪市	■	■
その他公的施設	■	■

○中之島5丁目
 ・国際的な拠点形成に資する質の高い民間開発を誘導するまちづくりの検討・調整を進めます。

○中之島通等の歩行者空間整備
 ・文化施設が集まる中之島東部エリアにおいて2020年7月にこども本の森中之島が開館したことから、多種多様な来客が見込まれ、回遊性を向上させ、快適な歩行者空間のより一層の拡大・拡充を進めるとともに、歩行者交通量の増加に伴う事故リスクに対する交通安全対策の必要があることから、中之島通（2021年度工事完了）及び中央公会堂周辺（2022年度工事予定）について歩行者空間化を行います。



中之島図書館、中央公会堂の近代建築の魅力を活用して、中之島エリアの集客及び活性化をめざします。

○中之島4丁目
 ・大阪の文化・芸術・学術の中心を担う国際的な拠点へ
 ・2022年2月2日に開館した大阪中之島美術館と、市立科学館、国立国際美術館との連携により国内有数のミュージアムゾーンをめざします。
 ・大阪中之島美術館隣接市有地等で、社会学創・産学共創・アート拠点、未来医療国際拠点の形成をめざします。

■社会学創・産学共創・アート拠点

産学官の連携により、大阪大学の知を中之島で交差させ、文化・芸術・学術・技術のあらたな交流・発信拠点となる“中之島アゴラ”の形成を推進。大阪大学中之島センターにおいて、既存施設を改修・機能強化し、2023年春の開館をめざしています。

■大阪中之島美術館の開館

本市が所蔵する第一級のコレクションを活用して、市立美術館や東洋陶磁美術館とは異なる新たな魅力あふれる美術館が2022年2月2日に開館し、歴史的にも文化的にも豊かな蓄積をもつ中之島の魅力向上に貢献します。

■未来医療国際拠点

最先端の未来医療の産業化を推進し、難治性疾患に苦しむ国内外の患者への未来医療の提供をめざす拠点を形成。2024年春の開業をめざします。



御堂筋周辺

- 大阪のメインストリートである御堂筋では、時代の要請に応じ、21世紀の発展を支える新しい御堂筋とするため、歩いて楽しむ、24時間稼働する多機能エリアへの転換を図り、御堂筋のブランド力の向上をめざします。
- 歴史・文化的資源が集積するエリアでは、歴史・文化的な建物等を活用するなど、観光魅力向上につながる歴史・文化的まちなみの創出をめざします。



■御堂筋のブランド力の向上

側道を歩行者空間等として活用し、車中心から人中心の道路空間への転換を図ります。また、沿道建築物低層部における質の高いにぎわい施設の誘導により、大阪のシンボルストリートにふさわしいまちなみの創出やエリアの活性化を図ります。

御堂筋の側道歩行者空間化 (千日前通～道頓堀川区間 (東側))



御堂筋のまちなみ (淀屋橋～本町)



■歴史・文化的まちなみの創出

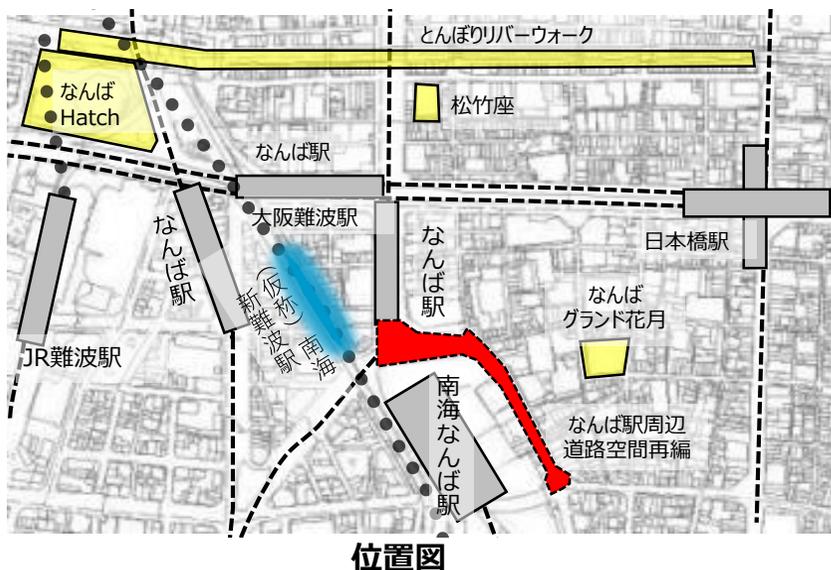
歴史・文化的な建築資源を活かした着地型観光拠点を創出するため、御堂筋や三休橋筋からの回遊性の向上をめざし、生きた建築ミュージアム等で選定された建築物の周辺において無電柱化や周辺景観と調和した道路整備を行いました。

無電柱化された芝川ビル周辺



難波周辺

- ・市民、観光客をはじめ、だれもが安心して訪れ、その歴史や風情を楽しむことができる環境づくりを進め、難波周辺を商業・観光エリア「ミナミ」として再生します。
- ・大阪のメインストリートである「御堂筋」の起終点として、なんば駅前において人中心の空間への再編を進め、新しいまちのシンボル空間を創出します。



■なんば駅周辺道路空間再整備

なんば駅周辺の道路空間を、車中心の空間から人中心の空間へと再編し、エリアマネジメント活動により、世界をひきつける観光拠点として上質で居心地の良い空間の創出を図ります。



なんば駅前広場（整備計画）



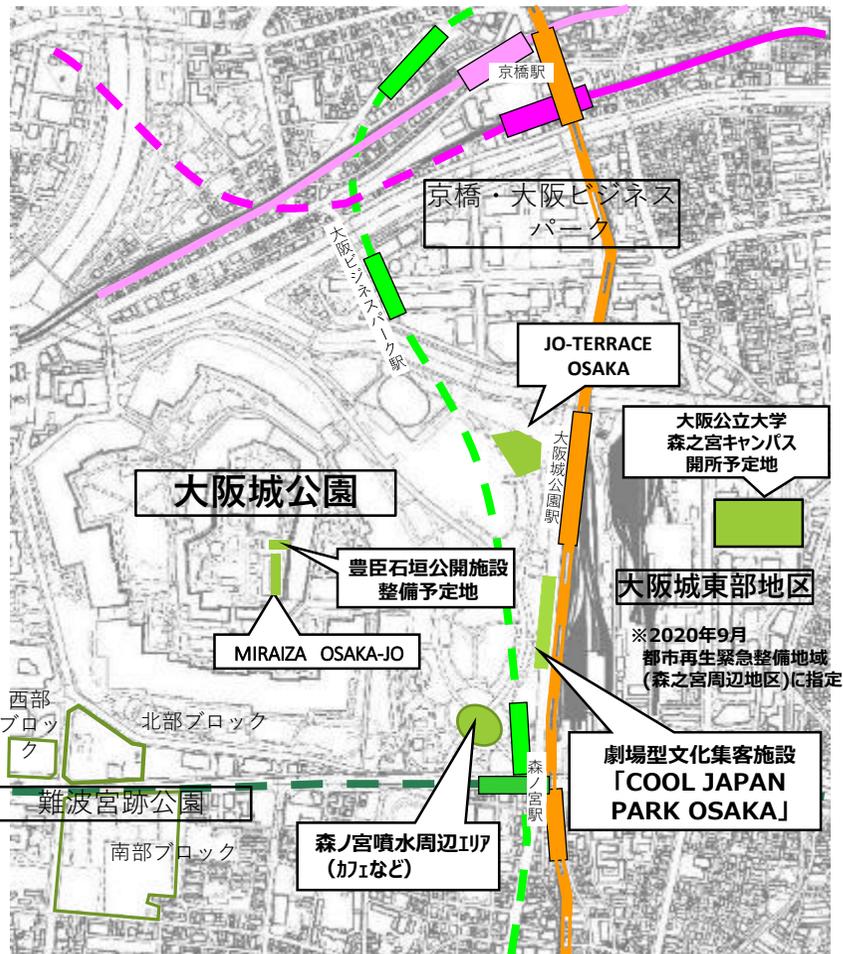
なんば駅前の現況



なんば駅前の将来イメージ

大阪城公園・森之宮・京橋・大阪ビジネスパーク周辺

- 大阪城公園の民間活力導入による新たな魅力創出や難波宮跡公園の歴史的資源の活用により、大阪城公園を中心とした世界的な歴史観光拠点化を一層進めます。
- 大阪城東部地区のまちづくりでは、大阪公立大学を先導役にして、観光集客・健康医療・人材育成・居住機能等の集積により、多世代・多様な人が集い、交流する国際色あるまちをめざします。
- 京橋駅周辺では、ターミナル駅の機能拡充や複合的な都市機能の集積を図るとともに、大阪ビジネスパーク駅周辺では、地区の環境への配慮や防災性の向上を図りながら国際的な業務・商業機能を充実・強化することにより、魅力ある複合的な国際拠点をめざします。



■大阪城公園パークマネジメント（PMO）

民間事業者によるパークマネジメント事業により、新たな魅力を創出する事業や新たな公園施設の設置などを行い、その収益を公園全体の維持管理やさらなる魅力向上に還元することで、大阪城公園を世界的な歴史観光拠点とすることをめざします。

■豊臣石垣公開施設の整備事業

特別史跡大坂城跡の特徴である歴史の重層性を象徴する遺構のひとつとして、豊臣期大坂城の詰ノ丸石垣を露出公開展示し、大阪城の本物の歴史文化を体感できる施設をめざします。

■難波宮跡公園整備

難波宮跡公園は、歴史的資源を活かし、隣接する大阪城公園と一体となった、観光拠点となる歴史公園として整備を推進します。北部ブロックから整備を進め、周辺の回遊性の向上を図ります。

■大阪公立大学キャンパス整備事業

2025年4月の開所に向け、大阪公立大学の新たなキャンパスを整備します。



MIRAIZA OSAKA-JO
豊臣石垣公開事業 完成予想図



難波宮跡公園 完成予想図※



※提案段階のものであり、今後の協議により変更となる場合があります。
(提供：難波宮跡整備・運営事業者)

天王寺・阿倍野

天王寺・阿倍野地区は、多様な観光資源を有する大阪の南の玄関口であり、その強みを活かし、地区の核となる天王寺公園・動物園・美術館の魅力向上並びに、回遊性の向上や良好な景観の形成を図ることで、新たな都市魅力を創出する緑あふれる文化観光拠点をめざします。

■天王寺公園の魅力向上

天王寺公園を核とした天王寺・阿倍野地区の魅力発信・集客促進に取り組みます。

- 天王寺公園**
 官民連携等により、公園の新たな魅力を創出し、歴史・文化・自然が一体となった公園として、多様な人々が憩い楽しめる、大阪の南のシンボルになることをめざします。
- 天王寺動物園**
 地方独立行政法人による経営へと移行し、動物園の改革・改善を継続的に実施することで、大都市大阪にふさわしい魅力あふれる動物園をめざします。
- 大阪市立美術館**
 美術館の抜本的な改修を行い、現代の美術館に求められている機能の確保を図り、美術館の魅力向上につなげます。

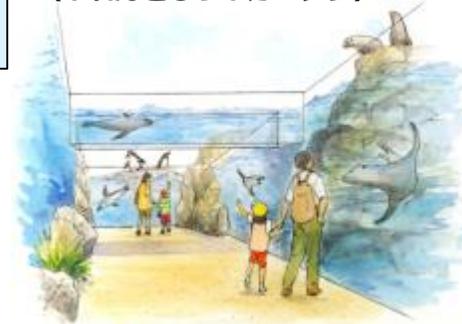
天王寺公園エントランスエリア
(てんしば)



天王寺動物園



(ふれんどしっぷガーデン)



(ペンギンアシカ舎イメージ)



■あべの筋の魅力づくり

あべの筋（あべのターミナル周辺）の路面電車軌道敷を芝生化するとともに、地域住民の安全にも配慮しつつ快適な公共空間を構築します。芝生化後のマネジメントについては、民間の活力を活用しながら持続可能な仕組みづくりをめざします。

芝生軌道（あべのキューズモール前付近）



大阪市立美術館



臨海部

・臨海部では、環境・新エネルギーのモデルエリアの実現に向けた取組みを進めるとともに、MICE機能や国際的なエンターテインメント機能等を備えた統合型リゾート（IR）の誘致や、クルーズ客船の母港化などにより、世界にアピールできる集客観光拠点をめざします。



■クルーズ客船母港化
 クルーズ客船の母港化により国内外の集客力を強化するとともに新たなウォーターフロントのまちづくりに挑戦し、世界にアピールできる集客観光拠点をめざします。

天保山岸壁に入港する客船



2025年日本国際博覧会の開催について

2025年日本国際博覧会の開催を大阪成長の起爆剤とし、大阪・関西の経済発展に大きな効果を得ることや大阪の魅力を全世界に発信する絶好の機会とするため、地元大阪はもちろんのこと、2025年日本国際博覧会協会及び国、経済界とも一丸となり、成功に向けて取組みを進めていく。

- **テーマ**
いのち輝く未来社会のデザイン
(Designing Future Society for Our Lives)
- **開催期間**
2025年4月13日～10月13日
- **会場**
夢洲 (大阪市此花区)
- **来場者数 (想定)**
約2,820万人
- **経済波及効果 (試算値)**
約2.0兆円 (ビッド・ドシ工提出時点)
- **主な開催経費**
会場建設費 約1,850億円
事業運営費 約809億円

